

第Ⅳ部門 街区公園の利用と形状

大阪工業大学大学院工学研究科 学生員 ○渡邊 立樹
大阪工業大学工学部 正会員 田中 一成

1. はじめに

これまで、都市には多くの公園が整備されている。その中で最も小規模な街区公園は数多く存在するが、十分に使われていないようにみえる公園も多い。その理由の一つに、街区公園の形状と現代の都市生活の乖離がある。誘致距離が短いという街区公園の特徴を生かすためにはより市民生活に実距離だけではなく、心理的にも近い空間にする必要がある。そうすることで、街区公園が市民にとってより身近で愛着のあるものになる。

また公園を有効に利用しないことで、治安の悪化、公園機能の低下など健全な公園機能を享受できない。また防災・減災の観点からも、身近な公園を活かす必要がある。距離的に身近な公園を心理的にも身近な公園にすることで、現代の都市生活から薄れつつある地域コミュニティを構成する空間となり、豊かな地域コミュニティの創造は減災活動に必要な共助にもつながる。災拠点である身近な街区公園は、防災・減災の観点から重要である。

また神戸市では2018年に住区基幹公園の見直し⁴⁾が進められており、その公園種別の内訳を図1に示す。

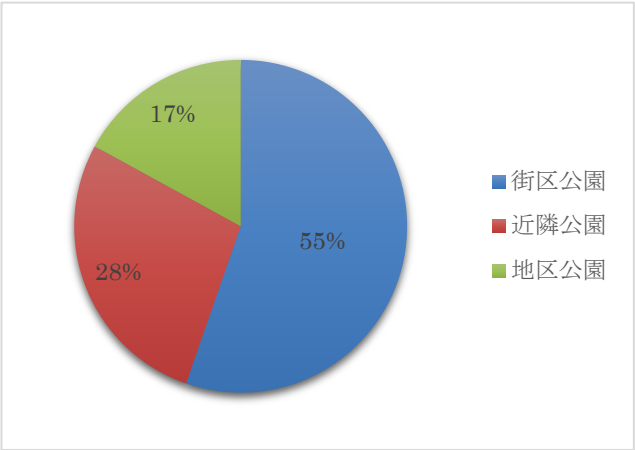


図1 神戸市の見直し公園の種別

この図からも街区公園を中心に見直されていることがわかる。

そこで本研究では、街区公園の可能性を見つけ出すため、利用される公園と街区公園の差異を明らかにすることで、街区公園の利用の現状を把握する。方法はアンケート調査を用いた。

2. アンケート調査

アンケート調査では、関西に居住する20代から50代の男女20名に最も利用している公園と自宅の最寄りの公園までの交通手段、所要時間(Google mapのルート機能を使用)、公園の利用目的、および利用頻度を調査した。ここでは、最も利用する公園を心理的に身近な公園、最寄りの公園を距離的に身近な公園とする。また公園種別は、国土交通省ウェブマッピングシステムより判定した。記載されていない公園については各自治体の公園種別より判定しているが、判定できなかったものについては不明・その他とした。

表1 一番利用する公園と最寄りの公園までの平均所要時間と自宅からの距離

	平均所要時間	自宅からの平均距離 (m)
一番利用する公園	5.85	1356
最寄りの公園	2.45	182

このことから、最寄りの公園は182mと街区公園の誘致距離である250m以内に位置していることがわかる。一方、心理的指標である最も利用する公園は、これら最寄りの街区公園ではなく、1356mと自宅から遠い公園を利用していることが多いことがわかった。次に、最も利用する公園と最寄りの公園の種別を、図2および図3に示す。

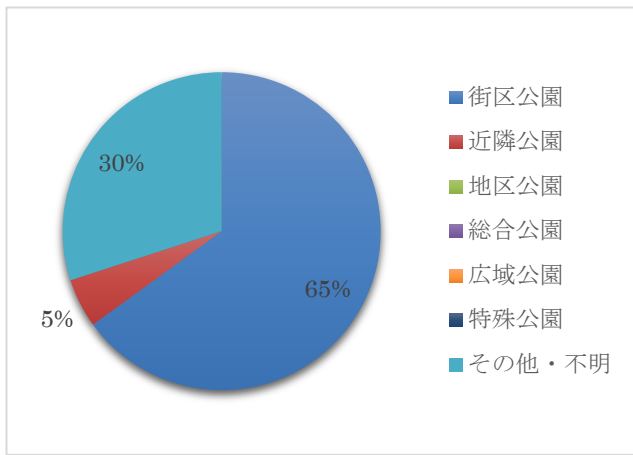


図2 最寄りの公園の種類割合

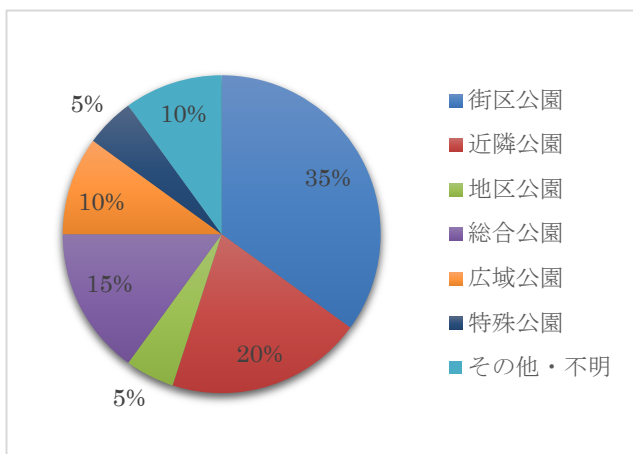


図3 最も利用する公園の種類割合

図2の最寄りの公園の種類から、街区公園が距離的に身近な公園であることがわかる。図3の最も利用する公園において、遠方にあるながら、他の公園の利用と比較して、街区公園を利用している場合が多いことがわかる。そこで、ここでは最も利用している選ばれた街区公園の特徴をみいだすことを試みる。

3. 利用される公園の特徴

アンケートの結果より最も利用されると回答された街区公園と最寄りの使われていない街区公園を比較した。ここでは、公園機能および設備を調査するため、Google map のストリートビュー機能を用いた。

調査の結果、ベンチや遊具など公園内の施設には大きな差は見られなかったが、使われていない最寄りの公園は1mから4mの比較的大きいフェンスや植栽で公園が覆われており、公園の全体像が見えなかったものが多いことがわかった。最も使われている公園に選ばれている街区公園では、全く囲いがない公園や比較的小さいフェンスや所々植栽と比較的外観で全体像を把握しやすい公園が多いことがわかった。



図4 最も利用している公園の例



図5 最寄りの公園が使われていない公園の例

以上のことから、距離的にも心理的にも身近な公園の条件のひとつとして、全体像が分かる視界が開けた公園であることがわかる。また、アンケートで公園の利用目的として散歩時の休憩や談笑が多かったことから、入りやすく休憩や話をしやすい位置にあることも要因のひとつである可能性が考えられる。

4. おわりに

この研究では、現在数多く存在する街区公園を物理的に距離だけではなく、心理的に身近な空間にするために、外見的に開けた空間にすることが要因のひとつだということを明らかにした。今回の調査のなかで、自宅の近くに公園があったことを認知していないとする回答もあったことから、開けた公園を整備することは公園認知につながることも考えられる。公園利用については地域の特色が色濃く出ることが予想されることから、今後はその地域の地味等の物理的な条件だけでなく、文化や歴史等にも着目していく。

5. 参考文献

- 1) 国土交通省ウェブマッピングシステム
<https://nlfp.mlit.go.jp/webmaps/mapmain.html#5/36.104611/140.084556&base=std&ls=std&disp=1&vs=c1j0h0k0l0u00z0r0s0m0f1>
- 2) Google map <https://www.google.com/maps/>
- 3) 居心地が良く 歩きたくなる グランドレベルデザイン 事例から学ぶその要素とポイント, 国土交通省 都市局 まちづくり推進課,p3-17,2019.6
- 4) 身近な都市計画公園の見直し方針,神戸市,p1-41,2018.2